

【総領事館からのお知らせ:安全対策情報:12月】

平成24年12月17日(総12第32号)

在デンパサール日本国総領事館

1 治安情勢

ジャワ島では、テロリスト容疑者の検挙がその後も行われています。バリ島では特に事件は発生していませんが、テロ関連情報等には引き続き御留意下さい。

2 一般情勢

(1) 狂犬病

11月12日、ジュンブラナ県のネガラにおいて、狂犬病感染の犬に14名の住民が噛まれるという事案がありました。同県の保健局は、周辺の野良犬の根絶と飼い犬へのワクチン接種を呼びかけています。バリ島では多くの野良犬が見られますが、様子がおかしい野良犬を見かけた場合には近づかないなど十分御注意ください。

(2) 空港での停電

11月26日及び28日、バリ島ングラ・ライ国際空港で相次いで停電(15分~20分継続)が発生し、空港内の照明や空調施設及びエスカレーターが一時止まるというハプニングがありました。

(3) 鳥インフルエンザ

インドネシア国内では、最近数ヶ月はヒトへの感染例の報告はありませんが、ジャワ島の複数の州で11月に30万羽以上のアヒルが死んだとの報告もあります。インドネシア農業省の発表によれば、これまで見られなかった毒性がより強いタイプの鳥インフルエンザ・ウイルス(高病原性H5N1亜型)が確認されている由ですが、これらのウイルスは、インドシナ半島から輸入鴨と一緒に持ち込まれた模様です。

また、12月上旬、バリ島のジュンブラナ県ヌガラにおいて、400羽以上の鶏が急死する事案がありましたが、鳥インフルエンザによる感染ではない模様です。

(4) 麻薬・薬物への注意

デンパサール市警察は、12月5日及び7日、市内において麻薬・薬物の売人を検挙し、大麻50kg、エクスタシー(合成麻薬)980錠、覚醒剤25gを押収しました。同警察によれば、年末から新年にかけてのこの時期には、麻薬や薬物の売買が活発になると予想されることから、取り締まりを強化している模様です。当地では、警察当局による麻薬売買のおとり捜査も行われますので、絶対に麻薬や薬物に安易に手を出さないよう御注意下さい。

(5) 最低賃金の引き上げをめぐる労働者によるデモ

12月6日、バリ州知事庁舎前において、来年度のバリ州の最低賃金が、同州賃金改定委員会によって118万1千ルピアに決定されたことに抗議し、140万ルピアへの引き上げを要求する労働者による小規模なデモが行われました。インドネシアの他の都市の最低賃金が来年度は大幅に引き上げられる予定であることから、バリ州においても今後の成り行きが注目されます。

3 邦人事故・事件関連

10月下旬、ジャカルタのスカルノハッタ空港から出国しようとした邦人が、「出入国カード（半券）の裏面に入国日のスタンプがない」と、入管係官からクレームを受け、出国を認められず、先方の要求するまま、やむなく2万円を支払って出国したとの事案があった由です。当地ングラ・ライ空港においても12月2日に入国した邦人の到着ビザに11月2日付け入国スタンプが押印されていることが判明し、当館より入管当局に申し入れを行った経緯もあります。

つきましては入国手続き時に、出入国カード及び到着ビザについて入国スタンプの有無等を確認し、万一、スタンプが押されていない、あるいは日付が誤っている等の場合には、出国時のトラブルを避けるために、その場で押印や訂正を要求することをお勧めします。

以上